



Oracle® Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド

リリース 10.1.3.2
2007 年 5 月

Oracle Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド, リリース 10.1.3.2

部品番号 : E05033-01

原本名 : Oracle Business Intelligence Infrastructure Upgrade Guide, Version 10.1.3.2

原本部品番号 : B31771-01

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとし、著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり、あります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章： このリリースの新機能

第 2 章： 新しい Oracle BI Infrastructure にアップグレードする前の作業

Oracle Business Intelligence Infrastructure コンポーネントの新しい名前	8
Oracle BI Infrastructure の主要な変更内容	9
Siebel Analytics の各種バージョンにおけるアップグレード手順の概要	9
サード・パーティまたはその他のデプロイメント・コンポーネントのアップグレード	10
Siebel Business Analytics プラットフォームのアップグレード対象コンポーネント	10
Siebel Business Analytics ファイルとフォルダのバックアップ	11
Windows オペレーティング・システムで自動的にバックアップされるファイル	11
Linux および UNIX オペレーティング・システムで自動的にバックアップされるファイル	12

第 3 章： Oracle BI Infrastructure のアップグレードの実行

Oracle BI Infrastructure コンポーネントのアップグレード	14
Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード	14
ユーザー数が 4,000 人未満の場合の Microsoft Windows における Web Catalog のアップグレード	15
ユーザー数が 4,000 人未満の場合の Linux または UNIX における Web Catalog のアップグレード	15
ユーザー数が 4,000 人以上の場合の Web Catalog のアップグレード	16
Oracle BI Infrastructure で使用する既存リポジトリのアップグレード	18
WebARchive ファイルのアップグレード	18
Oracle BI Disconnected Analytics のアップグレード	18
サイレント・モードでのアップグレード後に Presentation Services で必要とされる変更	19
Siebel Analytics Microsoft Excel アドインのアップグレード	20
使用状況トラッキング・スキーマのアップグレード	20

第 4 章： 新しい Oracle BI Infrastructure にアップグレードした後の作業

カスタマイズされた設定または文字列の再適用	22
-----------------------	----

カスタマイズされたスタイルシートの再適用	22
Oracle BI Scheduler の再構成	23
Oracle BI Scheduler サーバーの再構成	23
Microsoft Windows での Oracle BI Scheduler 設定の再作成	23
アップグレードされたコンポーネントのバージョン番号の確認	24
Siebel Business Analytics から Oracle BI Infrastructure へのアップグレード後の変更	24
Oracle BI Infrastructure のプレリリース・バージョンからのアップグレード	26
Oracle BI Infrastructure のテスト	26
Oracle BI Infrastructure へのアップグレードのアンインストール	26

索引

1

このリリースの新機能

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、これまで Siebel Systems 社の Siebel Business Analytics プラットフォームとして提供されていたコンポーネントで構成されており、その機能が大幅に向上しています。

『Oracle Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド』は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のドキュメント・セットの一部です。このマニュアルには、Siebel Business Analytics プラットフォーム（バージョン 7.8）から Oracle Business Intelligence Infrastructure 10.1.3.2 へのアップグレードに関する情報が記載されています。このマニュアルには、新しい記述と、以前は『Siebel Business Analytics Platform Upgrade Guide』というタイトルで公開されていた記述があります。

注意：このマニュアルでは、事前に作成された Analytics アプリケーションで提供されるデータやメタデータのアップグレード・プロセスについては説明しません。Analytics アプリケーションのアップグレード方法については、Oracle Business Intelligence アプリケーションのドキュメントを参照してください。

Oracle BI Infrastructure をインストール、使用またはアップグレードする前に、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のリリース・ノートに目を通すことをお勧めします。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のリリース・ノートは、次の場所にあります。

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の CD-ROM
- Oracle Technology Network (http://www.oracle.com/technology/documentation/bi_ee.html) (Oracle Technology Network の無料アカウントを登録するには、<http://www.oracle.com/technology/about/index.html> にアクセスしてください)

『Oracle Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド、リリース 10.1.3.2』に記述された新機能

『Oracle Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド』は、Siebel Business Analytics プラットフォームを Oracle Business Intelligence Infrastructure 10.1.3.2 にアップグレードする組織を対象としています。

表 1 に、このリリースのドキュメントに記述された変更内容を一覧表示します。

表 1. 『Oracle Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド、リリース 10.1.3.2』に記述された製品の機能

項	説明
Oracle Business Intelligence Infrastructure コンポーネントの新しい名前 (8 ページ)	Siebel Business Analytics プラットフォームのコンポーネント名と新しい Oracle Business Intelligence Infrastructure のコンポーネント名との対応表を追加しました。
Oracle BI Scheduler の再構成 (23 ページ)	Oracle BI Scheduler のアップグレード後の作業に関する情報を追加しました。
Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード (14 ページ)	Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレードに関する情報を追加しました。
使用状況トラッキング・スキーマのアップグレード (20 ページ)	使用状況トラッキングへの変更と、アップグレード方法に関する情報を追加しました。
新しい Oracle BI Infrastructure にアップグレードした後の作業 (21 ページ)	アップグレード後の変更と、アップグレード後の作業に関する情報を追加しました。

2

新しい Oracle BI Infrastructure にアップグレードする前の作業

Oracle Business Intelligence Infrastructure へのアップグレードは、新しいインフラストラクチャ機能を利用するための、特定のビジネス要件に基づいて決定する必要があります。アップグレード計画の策定に役立つように、この章では、Siebel Business Analytics プラットフォームを Oracle BI Infrastructure にアップグレードする前に実行する必要がある、アップグレードの処理と作業について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- [Oracle Business Intelligence Infrastructure コンポーネントの新しい名前 \(8 ページ\)](#)
- [Oracle BI Infrastructure の主要な変更内容 \(9 ページ\)](#)
- [Siebel Analytics の各種バージョンにおけるアップグレード手順の概要 \(9 ページ\)](#)
- [サード・パーティまたはその他のデプロイメント・コンポーネントのアップグレード \(10 ページ\)](#)
- [Siebel Business Analytics プラットフォームのアップグレード対象コンポーネント \(10 ページ\)](#)
- [Siebel Business Analytics ファイルとフォルダのバックアップ \(11 ページ\)](#)

Oracle Business Intelligence Infrastructure コンポーネントの新しい名前

Siebel Business Analytics プラットフォームは現在、Oracle Business Intelligence Infrastructure と呼ばれています。以前の Siebel Business Analytics プラットフォームのコンポーネント名は、Oracle Business Intelligence Infrastructure のコンポーネント名に置き換えられています。表 2 に、古いコンポーネント名と新しいコンポーネント名の対応を示します。

表 2. 古いコンポーネント名と新しいコンポーネント名の対応

古い名前	新しい名前
Siebel Analytics Server	Oracle Business Intelligence Server
Siebel Analytics Web Server	Oracle Business Intelligence Presentation Services
Siebel Analytics Scheduler	Oracle Business Intelligence Scheduler
Siebel Answers	Oracle Business Intelligence Answers
Siebel Delivers	Oracle Business Intelligence Delivers
Siebel Intelligence Dashboards	Oracle Business Intelligence Interactive Dashboards
Siebel Analytics Web Catalog	Oracle Business Intelligence Presentation Catalog
Siebel Analytics Catalog Manager	Oracle Business Intelligence Catalog Manager
Siebel Analytics Server Administration Tool	Oracle Business Intelligence Server Administration Tool
Siebel Disconnected Analytics または Mobile Analytics	Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics
Siebel Open Intelligent Interface	Oracle Open Intelligence Interface
関連するコンポーネント・プログラム :	関連するコンポーネント・プログラム :
チャート・イメージ・サーバー	チャート・イメージ・サーバー
Siebel Analytics Client Tools	Oracle Business Intelligence Client Tools
Siebel Analytics ODBC Client	Oracle Business Intelligence ODBC Client
Siebel Briefing Book Reader	Oracle Business Intelligence Briefing Book Reader
Siebel Business Analytics Briefing Books	Oracle Business Intelligence Briefing Books
Siebel Analytics Microsoft Excel アドイン	Oracle Business Intelligence Microsoft Excel アドイン
XML Publisher	Oracle Business Intelligence Publisher

Oracle BI Infrastructure の主要な変更内容

Oracle BI Infrastructure には、アップグレード完了後のデプロイメントに関連する次の主要な機能があります。これらの機能は、Oracle BI で新たに導入されているか、Siebel Business Analytics から大幅に変更されています。

- Oracle BI Infrastructure には、新しいインストール・パスおよびフォルダ構造があります。バイナリ・ファイルと構成ファイルは、¥\$OracleBI_HOME¥server¥ (Windows) または /\$OracleBI_HOME/Server/ (Linux および UNIX) に保存されています。
- Oracle BI Presentation Catalog アーキテクチャは、Siebel Analytics Web Catalog のアーキテクチャから変更されています。Presentation Catalog は単一ファイルではなくなり、オペレーティング・システムの複数のディレクトリに複数ファイルに分割されて保存されています。¥OracleBI¥web¥bin¥sawmigrate.exe ユーティリティ (Windows) または /OracleBI/web/bin/sawmigrate ユーティリティ (Linux または UNIX) は、Web Catalog のレガシー・ファイルを新しいファイルとディレクトリ構造に変換します。変換方法については、「[Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード](#)」(14 ページ) を参照してください。
- Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 のクラスタ化では、Presentation Services の実行サーバーのクラスタ化、および Oracle BI Scheduler の実行サーバーのクラスタ化がサポートされるようになりました。これらの新機能については、『Oracle Business Intelligence Enterprise Edition デプロイメント・ガイド』を参照してください。
- Oracle BI Presentation Services では、クロスサイト・スクリプティング (XSS) に対するセキュリティ保護がされています。デフォルトでは、HardenXSS 要素が true に設定されています。つまり、ユーザーは、HTML を使用してレポートやダッシュボードをマークアップできません。HardenXSS 設定、およびユーザーの HTML 入力を可能にする方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

Siebel Analytics の各種バージョンにおけるアップグレード手順の概要

アップグレードに必要な手順は、インストールしている Siebel Analytics のバージョンによって異なります。

- Siebel Analytics 7.8.x から Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 にアップグレードする場合は、このガイドの手順に従うだけで十分です。Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 にアップグレードするときは、Siebel Analytics 7.8.4 または 7.8.5 をアンインストールする必要はありません。ただし、Siebel Analytics Microsoft Excel アドインをアンインストールする必要があります。
- Siebel Analytics 7.5.x、7.7 および 7.7.1 x からアップグレードする場合は、次の手順を実行します。
 - 「[Siebel Business Analytics ファイルとフォルダのバックアップ](#)」(11 ページ) の説明に従って、webcat ファイル、リポジトリ・ファイル、およびその他の必要なファイルのコピーを保存します。
 - Siebel Analytics をアンインストールします。
 - 『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールガイド』の説明に従って、Oracle BI Infrastructure インストーラを実行します。
 - 「[Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード](#)」(14 ページ) の説明に従って、sawmigrate ユーティリティを使用して Web Catalog を移行します。
 - 「[Oracle BI Infrastructure で使用する既存リポジトリのアップグレード](#)」(18 ページ) の説明に従って、Oracle BI Server Administration Tool で Siebel Analytics リポジトリを開いてから保存します。

サード・パーティまたはその他のデプロイメント・コンポーネントのアップグレード

インフラストラクチャのアップグレード・プロセスを開始する前に、『Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム』を参照してください。Oracle Business Intelligence Infrastructure のアップグレードには、Presentation Services サブレット、データベース・ソフトウェアや ODBC ドライバなど、サード・パーティまたはその他のデプロイメント・コンポーネントのアップグレードが必要になる場合があります。

コンポーネントのアップグレードが必要な場合は、Oracle BI Infrastructure のアップグレードを実行する前に、そのコンポーネントのアップグレードを実行しておく必要があります。

アップグレードが必要とされるコンポーネントは、アップグレード元の Siebel Business Analytics のバージョンとデプロイメント環境によって異なります。ご使用のシステムが Oracle BI Infrastructure のすべての要件を満たしていることを確認してください。これらの要件の例を次に示します。

- Microsoft Windows、Linux および UNIX の全バージョンでは、アップグレードの前に JDK 1.5 以上がインストールされている必要があります。
- Windows 2003 SP1 では、アップグレードの前に DEP 設定が変更されている必要があります。
- Microsoft Excel アドインを使用する Microsoft Windows システムでは、アップグレードの前に .Net Framework 2.0 がインストールされている必要があります。
- Red Hat Linux では、アップグレードの前に gcc ファイル (C++ 共有オブジェクト・ファイル) がインストールされている必要があります。

Siebel Business Analytics プラットフォームのアップグレード対象コンポーネント

アップグレードを決定した場合、Siebel Business Analytics プラットフォームのすべてのコンポーネントをアップグレードする必要があります。たとえば、新しいバージョンのリポジトリを古いバージョンの Server Administration Tool で開くことはできません。つまり、Oracle BI 10.1.3.2 で保存されたリポジトリを Siebel Business Analytics 7.8.x で開くことはできません。

Oracle Business Intelligence 管理者は、Oracle Business Intelligence の主要コンポーネントの中で同じマシンにインストールされるもの、または Oracle BI デプロイメントの一部を形成するものが、同一のリリースであることを確認する必要があります。たとえば、リリース 7.8 の Siebel Analytics Server がインストールされたままの状態、Oracle Business Intelligence Presentation Services のみをシステムでアップグレードすると、これらの 2 つのサーバーは正常に連携しません。

アップグレード・プロセスの完了後に、Oracle BI コンポーネントのバージョン番号を確認する方法については、「[アップグレードされたコンポーネントのバージョン番号の確認](#)」(24 ページ) を参照してください。

Siebel Business Analytics ファイルとフォルダのバックアップ

Siebel Business Analytics プラットフォームをアンインストールしたり、Oracle Business Intelligence Infrastructure ソフトウェアにアップグレードする前に、構成ファイル、Siebel Business Analytics Web Catalog や Siebel Business Analytics リポジトリ・ファイル、また SiebelAnalyticsData¥Web¥Res 内のメッセージ・ファイル、スタイルシート、カスタム・スキンなどのカスタマイズされたファイルをバックアップしてから、それらのファイルを一時的な場所に移動しておく必要があります。

instanceconfig.xml ファイルまたは Analytics Windows レジストリの文字列がカスタマイズされている場合は、これらを新しいインストールの instanceconfig.xml ファイルまたは Analytics Windows レジストリの文字列と比較できるようにバックアップしておく必要があります。これらのカスタマイズ設定が新しいリリースでも使用可能な場合は、適宜適用する必要があります。

Siebel Analytics 7.8.x から Oracle BI Infrastructure にアップグレードする場合、特定のファイルも自動的にバックアップされます。これらのファイルは、次のディレクトリに保存されます。

- \$OracleBI_HOME: Oracle BI Infrastructure のルート・インストール・ディレクトリ

- \$OracleBIData_HOME: Oracle BI データのルート・インストール・ディレクトリ

バックアップされるファイルの名前は、基礎となるオペレーティング・システムによって異なります。

- [Windows オペレーティング・システムで自動的にバックアップされるファイル \(11 ページ\)](#)

- [Linux および UNIX オペレーティング・システムで自動的にバックアップされるファイル \(12 ページ\)](#)

Windows オペレーティング・システムで自動的にバックアップされるファイル

インストーラによって、表 3 に示されている Windows ファイルが自動的にバックアップされます。Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 には、最上位ディレクトリが 2 つあります。ルート・インストール・ディレクトリである \$OracleBI_HOME と、Oracle BI データのルート・インストール・ディレクトリである \$OracleBIData_HOME です。

通常、これらのディレクトリは同じ親ディレクトリに存在します。たとえば、\$OracleBI_HOME は D:¥OracleBI¥OracleBI に、\$OracleBIData_HOME は D:¥OracleBI¥OracleBIData になります。バックアップ・ファイルは、\$OracleBI_HOME または \$OracleBIData_HOME のいずれかのディレクトリに保存されます。

表 3. Windows における Siebel Analytics 構成ファイルとフォルダのバックアップ場所

ファイル名またはフォルダ名	Oracle BI でのコピー先
¥SiebelAnalyticsData¥Web¥Catalog¥Deliveries フォルダ	Oracle Business Intelligence Presentation Services マシン
DBFeatures.INI ファイル	\$OracleBI_HOME¥server¥Config¥DBFeatures.INI.78

表 3. Windows における Siebel Analytics 構成ファイルとフォルダのバックアップ場所

ファイル名またはフォルダ名	Oracle BI でのコピー先
NQClusterConfig.INI ファイル	\$OracleBI_HOME¥server¥Config¥NQClusterConfig.INI.78
NQSConfig.INI ファイル	\$OracleBI_HOME¥server¥Config¥NQSConfig.INI.78
リポジトリ (.rpd) ファイル	\$OracleBI_HOME¥server¥Repository (.rpd ファイル)
instanceconfig.xml ファイル	\$OracleBIData_HOME¥Web¥config¥Instanceconfig.xml.78
Web Catalog ディレクトリ	\$OracleBIData_HOME¥Web¥catalog¥*.webcat

Linux および UNIX オペレーティング・システムで自動的にバックアップされるファイル

インストーラによって、表 4 に示されている Linux または UNIX ファイルが、自動的にバックアップされてから指定の場所にコピーされます。Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 には、最上位ディレクトリが 2 つあります。OracleBI と OracleBIData です。通常、これらのディレクトリは同じ親ディレクトリに存在します。たとえば、/usr/local/OracleBI と /usr/local/OracleBIData になります。

表 4. UNIX における Siebel Analytics 構成ファイルとディレクトリのバックアップ場所

Siebel Analytics ファイル名またはディレクトリ名	Oracle BI でのコピー先
/SiebelAnalyticsData/Web/catalog/Deliveries フォルダ	Oracle Business Intelligence Presentation Services マシン
DBFeatures.INI ファイル	OracleBI/server/Config
instanceconfig.xml ファイル	OracleBIData/web/config
NQClusterConfig.INI ファイル	OracleBI/server/Config
NQSConfig.INI ファイル	OracleBI/server/Config
odbc.ini ファイル	OracleBI/setup
リポジトリ (.rpd) ファイル	OracleBI/server/Repository
user.csh ファイル	OracleBI/setup
user.sh ファイル	OracleBI/setup
Web Catalog ディレクトリ	Oracle Business Intelligence Presentation Services マシン

3

Oracle BI Infrastructure のアップグレードの実行

アップグレード・プロセスでは、新しい Oracle BI Infrastructure ソフトウェアを以前のバージョンの Siebel Analytics と同じネットワークおよびマシンの場所にインストールします。Oracle BI Disconnected Analytics を使用する場合は、それ以外に、個別のアップグレード・プロセスを実行する必要もあります。Siebel Business Analytics プラットフォームから Oracle BI Infrastructure へのアップグレードには、ライセンスは不要です。

この章の内容は次のとおりです。

- [Oracle BI Infrastructure コンポーネントのアップグレード \(14 ページ\)](#)
- [Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード \(14 ページ\)](#)
- [Oracle BI Infrastructure で使用する既存リポジトリのアップグレード \(18 ページ\)](#)
- [WebARchive ファイルのアップグレード \(18 ページ\)](#)
- [Oracle BI Disconnected Analytics のアップグレード \(18 ページ\)](#)
- [Siebel Analytics Microsoft Excel アドインのアップグレード \(20 ページ\)](#)
- [使用状況トラッキング・スキーマのアップグレード \(20 ページ\)](#)

Oracle BI Infrastructure コンポーネントのアップグレード

この項では、Oracle BI Disconnected Analytics 以外の Oracle BI Infrastructure コンポーネントのアップグレード手順を実行する方法について説明します。

アップグレード手順を実行する前に、前の章の情報を見なおして、必要な作業をすべて実行したことを確認してください。

Oracle BI Infrastructure コンポーネントをアップグレードするには

- 1 7.8.x コンポーネントがインストールされているマシンで、10.1.3.2 のインストーラを起動します。インストーラは既存のバージョンを検出し、バイナリ・ファイルを更新します。
- 2 既存の構成を維持するか、それともデフォルトに戻すかどうかを求めるプロンプトが表示されたら、既存の構成を維持します。

アップグレード・プロセスの実行時に表示されるインストーラ・プロンプトの詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- 3 次の場所にある SiebelAnalytics.webcat.version ファイルを削除します。

- Microsoft Windows: \$INSTALLDIR\SiebelAnalyticsData\Web\catalog

- Linux: \$INSTALLDIR/SiebelAnalyticsData/web/catalog

注意: Web Catalog ファイルは、「Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード」の手順に従って、新しい Presentation Catalog フォーマットにアップグレードする必要があります。

- 4 この章で説明されている他の必要なアップグレード作業を読んで実行します。

- 5 第4章「新しい Oracle BI Infrastructure にアップグレードした後の作業」に進み、アップグレード後に必要なすべての作業を実行します。

注意: Oracle BI Scheduler を使用する場合は、「Oracle BI Scheduler の再構成」(23 ページ) を熟読してください。

Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード

アップグレードの完了後は、Siebel Analytics Web Catalog を Oracle BI Presentation Catalog フォーマットに変換する必要があります。実行する手順は、オペレーティング・システムとユーザー数によって異なります。

- ユーザー数が 4,000 人未満の場合の Microsoft Windows における Web Catalog のアップグレード (15 ページ)
- ユーザー数が 4,000 人未満の場合の Linux または UNIX における Web Catalog のアップグレード (15 ページ)
- ユーザー数が 4,000 人以上の場合の Web Catalog のアップグレード (16 ページ)

ユーザー数が 4,000 人未満の場合の Microsoft Windows における Web Catalog のアップグレード

Web Catalog ユーザー数が 4,000 人未満である場合や、Presentation Services ユーザー数が 4,000 人未満になる予定の場合は、次の手順を実行して、Web Catalog を Presentation Catalog 構造に変換します。この手順では、Web Catalog のサンプル名として mywebcat.webcat が使用されています。

ユーザー数が 4,000 人未満の場合に Windows で Web Catalog をアップグレードするには

- 1 既存のカスタム webcat ファイルを、\$OracleBIData_HOME\webcatalog にコピーします。
- 2 Presentation Services を停止します。
- 3 Web Catalog の名前が mywebcat.webcat であると想定する場合、次のように sawmigrate ユーティリティを実行します。

```
$OracleBI\web\bin>sawmigrate $OracleBIData_HOME\web\catalog\mywebcat.webcat
```

sawmigrate ユーティリティが実行され、そのユーティリティが実行されたシェル、画面またはコンソールにレポートが出力されます。このレポートには、警告、エラー・メッセージ、およびアップグレードに失敗したオブジェクトのリストが含まれます。ユーティリティによって、\$OracleBIData_HOME/web/catalog の下に mywebcat というディレクトリが、共有フォルダ、ユーザーおよびその他のカタログ・オブジェクトとともに作成されます。

注意：サイズの大きな Web Catalog をアップグレードすると、完了までに数時間かかる場合があります (30MB のカタログ・データで約 1 時間)。sawmigrate プロセスを途中で中断するとアップグレードは完了しません。

ユーザー数が 4,000 人未満の場合の Linux または UNIX における Web Catalog のアップグレード

Web Catalog ユーザー数が 4,000 人未満である場合や、Presentation Services ユーザー数が 4,000 人未満になる予定の場合は、次の手順を実行して、Linux または UNIX で Web Catalog を Presentation Catalog 構造に変換します。この手順では、Web Catalog のサンプル名として mywebcat.webcat が使用されています。

ユーザー数が 4,000 人未満の場合に Linux または UNIX で Web Catalog をアップグレードするには

- 1 既存のカスタム webcat ファイルを、\$OracleBIData_HOME/web/catalog ディレクトリにコピーします。
- 2 Presentation Services を停止します。
- 3 \$OracleBIData_HOME/web/catalog にある既存のデフォルト・ディレクトリを削除します。
- 4 bash シェルに切り替えてから、\$OracleBI_HOME/setup ディレクトリの saw.sh に対して source コマンドを実行します。このコマンドにより、ANA_INSTALL_DIR、PATH、LD_LIBRARY_PATH、JAVA_HOME などの環境変数が設定されます。

```
bash
```

```
source saw.sh
```

注意： sawmigrate ユーティリティを実行する前に source saw.sh を実行しないと、共有ライブラリ・エラーが発生する場合があります。

- 5 Web Catalog の名前が mywebcat.webcat であると想定する場合、次のように bash シェルで、\$OracleBIData_HOME/web/bin に常駐する sawmigrate ユーティリティを実行します。

```
sawmigrate $OracleBIData_HOME/web/catalog/mywebcat.webcat
```

sawmigrate ユーティリティが実行され、そのユーティリティが実行されたシェル、画面またはコンソールにレポートが出力されます。このレポートには、警告、エラー・メッセージ、およびアップグレードに失敗したオブジェクトのリストが含まれます。ユーティリティによって、\$OracleBIData_HOME/web/catalog の下に mywebcat というディレクトリが、共有フォルダ、ユーザーおよびその他のカタログ・オブジェクトとともに作成されます。

注意： サイズの大きな Web Catalog をアップグレードすると、完了までに数時間かかる場合があります (30MB のカタログ・データで約 1 時間)。sawmigrate プロセスを途中で中断するとアップグレードは完了しません。

ユーザー数が 4,000 人以上の場合の Web Catalog のアップグレード

ユーザー数が 4,000 人以上のサイズの大きな Web Catalog ファイルが存在する場合や、今後 Presentation Catalog ユーザー数が 4,000 人以上になる予定の場合は、Windows、Linux または UNIX のいずれかのシステムで次の手順を実行して、Web Catalog をアップグレードします。

ユーザー数が 4,000 人以上の場合に Web Catalog をアップグレードするには

- 1 Presentation Services を停止します。
- 2 instanceconfig.xml ファイルに次のエントリを記述します。このファイルは、Windows システムでは \$OracleBIData_HOME\web¥config に、Linux または UNIX システムでは \$OracleBIData_HOME/web/config にあります。

```
<Catalog>
  <AccountIndexRefreshSecs>3600000</AccountIndexRefreshSecs>
  <AccountCacheTimeoutSecs>3600000</AccountCacheTimeoutSecs>
  <PrivilegeCacheTimeoutSecs>3600000</PrivilegeCacheTimeoutSecs>
  <CacheTimeoutSecs>3600000</CacheTimeoutSecs>
  <CacheCleanupSecs>3600000</CacheCleanupSecs>
  <HashUserHomeDirectories>2</HashUserHomeDirectories>
</Catalog>
```

HashUserHomeDirectories は、ファイル・システムの制限を解決するための設定で、ユーザーのホーム・ディレクトリをハッシュします。たとえば、ユーザー名が Steve の場合、論理フォルダ "/users/steve" は、ディスク上の物理ツリーでは "/users/st/steve" になります。それ以外の設定は、カタログ・キャッシュの再構築を無効にします。

- 3 instanceconfig.xml ファイルを保存します。
- 4 既存のカスタム webcat ファイルを、Windows の場合は \$OracleBIData_HOME¥web¥catalog に、Linux または UNIX システムの場合は \$OracleBIData_HOME/web/catalog にコピーします。
- 5 Linux または UNIX システムでは、\$OracleBIData_HOME/web/catalog にある既存のデフォルト・ディレクトリを削除します。
- 6 Linux または UNIX システムでは、bash シェルに切り替えてから、\$OracleBI_HOME/setup ディレクトリの saw.sh に対して source コマンドを実行します。このコマンドにより、ANA_INSTALL_DIR、PATH、LD_LIBRARY_PATH、JAVA_HOME などの環境変数が設定されます。

```
bash
```

```
source saw.sh
```

注意：sawmigrate ユーティリティを実行する前に source saw.sh を実行しないと、共有ライブラリ・エラーが発生する場合があります。

- 7 Web Catalog の名前が mywebcat.webcat であると想定する場合、システムに応じた次のコマンドを使用して、sawmigrate ユーティリティを実行します。

Windows システム：

```
sawmigrate -c $OracleBIData_HOME¥web¥config¥instanceconfig.xml  
$OracleBIData_HOME¥web¥catalog¥mywebcat.webcat
```

Linux または UNIX システム：

```
sawmigrate -c $OracleBIData_HOME/web/config/instanceconfig.xml  
$OracleBIData_HOME/web/catalog/mywebcat.webcat
```

sawmigrate ユーティリティが実行され、そのユーティリティが実行されたシェル、画面またはコンソールにレポートが出力されます。このレポートには、警告、エラー・メッセージ、およびアップグレードに失敗したオブジェクトのリストが含まれます。ユーティリティによって、\$OracleBIData_HOME/web/catalog の下に mywebcat というディレクトリが、共有フォルダ、ユーザーおよびその他のカタログ・オブジェクトとともに作成されます。ユーザーのホーム・ディレクトリはハッシュされます。

注意：サイズの大きな Web Catalog をアップグレードすると、完了までに数時間かかる場合があります (30MB のカタログ・データで約 1 時間)。sawmigrate プロセスを途中で中断するとアップグレードは完了しません。

- 8 sawmigrate ユーティリティを実行して Presentation Catalog ファイル構造を作成した後に、instanceconfig.xml ファイルから次のエントリを削除します。

```
<Catalog>
```

```
  <AccountIndexRefreshSecs>3600000</AccountIndexRefreshSecs>
```

```
  <AccountCacheTimeoutSecs>3600000</AccountCacheTimeoutSecs>
```

```
  <PrivilegeCacheTimeoutSecs>3600000</PrivilegeCacheTimeoutSecs>
```

```
  <CacheTimeoutSecs>3600000</CacheTimeoutSecs>
```

```
  <CacheCleanupSecs>3600000</CacheCleanupSecs>
```

```
</Catalog>
```

注意： 次の設定はそのまま残します。

```
<Catalog>  
  <HashUserHomeDirectories>2</HashUserHomeDirectories>  
</Catalog>
```

Oracle BI Infrastructure で使用する既存リポジトリのアップグレード

アップグレード後の Oracle BI Infrastructure で既存リポジトリを使用するには、次の手順を実行します。

古いリポジトリを新しいプラットフォームのフォーマットに変換するには

- 1 Oracle Business Intelligence Enterprise Edition が稼働していることを確認します。
- 2 Oracle BI Infrastructure Server Administration Tool を使用して、リポジトリ・ファイルをオンライン・モードで開きます。
- 3 リポジトリ・ファイルを保存します。

注意： この手順を省略した場合、アップグレード後の Oracle BI Infrastructure で古いリポジトリ・ファイルが使用されるときに、そのリポジトリが Oracle BI Infrastructure での使用を目的としてメモリー内で新しいフォーマットに変換されますが、アップグレードされたリポジトリは保存されません。

WebARchive ファイルのアップグレード

アップグレード後は、すべての WebARchive (WAR) ファイルを再デプロイする必要があります。これらのファイルを再デプロイしないと、エラーが発生する場合があります。

Oracle BI Presentation Services の WAR ファイルを作成およびデプロイする方法については、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle BI Disconnected Analytics のアップグレード

注意： Oracle BI Disconnected Analytics は、Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 の基本アップグレードの一部ではありません。

Oracle BI Disconnected Analytics をサイレント・モードでアップグレードするには、Oracle BI Disconnected Analytics を実行する各マシンで次の手順を実行します。

Oracle BI Disconnected Analytics をアップグレードするには

- 1 次のコマンドを実行します。

```
setup.exe -w InitJavaHome.propertyValue="C:/j2sdk1.4.2_03" -w  
setupTypes.selectedSetupTypeId="DisconnectedClient" -G  
replaceExistingResponse="yesToAll" -G replaceNewerResponse="yesToAll" -silent
```

これらのオプションの値は次のとおりです。

オプション値	意味
-W InitJavaHome.propertyValue="C:/j2sdk1.4.2_03"	必要な Java SDK の場所を指定します。
-W setupTypes.selectedSetupTypeId="DisconnectedClient"	インストールの設定タイプを DisconnectedClient に指定します。
-G replaceExistingResponse="yesToAll"	これらの 2 つの設定は、残りは最後までデフォルト値を使用することをインストーラに指示します。
-G replaceNewerResponse="yesToAll"	
-silent	インストールをサイレント・モードで実行します。

- 2 Oracle BI Disconnected Analytics Client がアップグレードされたコンピュータを再起動します。再起動した後、各 Oracle BI Disconnected Analytics アプリケーションを同期化します。アプリケーションを同期化する方法については、『Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics 管理および構成ガイド』で説明されています。

Oracle BI Disconnected Analytics をサイレント・モードでアップグレードした後は、次の「[サイレント・モードでのアップグレード後に Presentation Services で必要とされる変更](#)」の説明に従って変更を加える必要があります。

サイレント・モードでのアップグレード後に Presentation Services で必要とされる変更

アップグレード後は、Oracle BI Disconnected Analytics をサポートするために次の変更を加える必要があります。

Presentation Services を変更するには

- 1 各 Oracle BI Disconnected Analytics アプリケーションの Web Catalog は、「[Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード](#)」（14 ページ）の説明に従ってアップグレードおよびアーカイブする必要があります。
- 2 Oracle BI Disconnected Analytics アプリケーションの構成ファイルにある XML タグの中には、Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 で廃止されているものがあります。これらのタグは、各アプリケーションで削除する必要があります。詳細は、『Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics 管理および構成ガイド』を参照してください。

Siebel Analytics Microsoft Excel アドインのアップグレード

以前のバージョンで配布されている Siebel Analytics Microsoft Excel アドインは、Oracle Business Intelligence Infrastructure 10.1.3.2 と連動できません。アドインをアップグレードするには、次の手順を実行します。

Microsoft Excel アドインをアップグレードするには

- 1 Siebel Analytics Microsoft Excel アドインをアンインストールします。
- 2 Oracle Business Intelligence Microsoft Excel アドインをインストールします。

使用状況トラッキング・スキーマのアップグレード

Oracle BI Infrastructure で使用状況トラッキングを有効にするには、いくつかの設定作業が必要です。アプリケーションによっては、追加の作業が必要になる場合もあります。

Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 では、使用状況トラッキングのために次の列が追加されます。

- SAW_DASHBOARD_PG: ダッシュボード内のページを示します。
- PRESENTATION_NAME: Presentation Catalog の名前を示します。
- ERROR_TEXT: バックエンド・データベースからのエラー・メッセージが格納されます。
- RUNAS_USER_NAME: 偽装ユーザーの名前が格納されます。

これらの新しい列によって、物理スキーマの更新が必要になります。スキーマをアップグレードする SQL スクリプトは、`$INSTALL%server%Schema` ディレクトリにあります。スキーマをアップグレードするには、次の中から、使用しているデータベース用のスクリプトを実行します。

- Oracle_alter_nq_acct.sql
- DB2_alter_nq_acct.sql
- SQLServer_alter_nq_acct.sql
- Teradata_alter_nq_acct.sql

`$OracleBI_HOME/server/Sample/Usage Tracking` ディレクトリには、Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 の新しい使用状況トラッキング機能の理解と使用に役立つ、次のものが用意されています。

- SQL_Server_Time: サンプル・テーブルに移入するためのスクリプト
- Usage Tracking: Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 の使用状況トラッキング機能のための新しい Presentation Catalog
- UsageTracking.rpd: Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 の使用状況トラッキング機能のための新しいリポジトリ・ファイル

Presentation Catalog をマージする方法については、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。リポジトリ（.rpd）ファイルをマージする方法については、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

4

新しい Oracle BI Infrastructure にアップグレードした後の作業

この章では、アップグレード後の考慮事項と作業について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- [カスタマイズされた設定または文字列の再適用 \(22 ページ\)](#)
- [カスタマイズされたスタイルシートの再適用 \(22 ページ\)](#)
- [Oracle BI Scheduler の再構成 \(23 ページ\)](#)
- [アップグレードされたコンポーネントのバージョン番号の確認 \(24 ページ\)](#)
- [Siebel Business Analytics から Oracle BI Infrastructure へのアップグレード後の変更 \(24 ページ\)](#)
- [Oracle BI Infrastructure のプレリリース・バージョンからのアップグレード \(26 ページ\)](#)
- [Oracle BI Infrastructure のテスト \(26 ページ\)](#)
- [Oracle BI Infrastructure へのアップグレードのアンインストール \(26 ページ\)](#)

カスタマイズされた設定または文字列の再適用

以前のデプロイメントで instanceconfig.xml ファイルまたは Analytics Windows レジストリの文字列がカスタマイズされている場合は、バックアップしたバージョンと新しいバージョンを比較します。これらのカスタマイズ設定が新しいリリースでも使用可能な場合は、再適用します。

カスタマイズされたスタイルシートの再適用

注意: Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のルック・アンド・フィールは変更されました。そのため、既存のカスタム・スタイルシートには、大幅な変更が必要な場合があります。詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。

Oracle BI Infrastructure のスキンとスタイルは変更されているため、デプロイメントのカスタマイズ設定を手動で確認した後、再適用と綿密なテストを行って、問題がないことを確認する必要があります。

Oracle BI Infrastructure に同梱されているデフォルトのスキンとスタイルは、Oracle BI Presentation Services のアプリケーション・リソース・ディレクトリ（インストール・ディレクトリの %web%app%res ディレクトリ）の sk_* と s_* フォルダにあります。新しいスタイルとスキンの名前は Oracle10 です。デフォルトのスタイルとスキンには、従来の Siebel スタイルに似ている更新版のスタイルも含まれます。

テストを終了したら、デフォルトの views.css ファイルを実装サーバーにコピーする前に、そのサーバー上で次の作業を実行して、サーバー・キャッシュをクリアする必要があります。

サーバー・キャッシュをクリアしてデフォルトのビューをリストアするには

- 1 Oracle Business Intelligence Server、Oracle Business Intelligence Presentation Services および Microsoft Internet Information Server (IIS) を停止します。
- 2 カスタム views.css をインストール先ディレクトリから削除します。次に例を示します。
`$INSTALL%web%app%res%s_Siebel7%b_mozilla_`
または
`$INSTALL%SiebelAnalyticsData%Web`
- 3 Siebel Analytics Web Server Cache をクリアします。
C:%WINDIR%Temp ディレクトリの nQs_*.temp ファイルを削除します。
- 4 ブラウザのキャッシュを次のようにクリアします。
Internet Explorer メニューから、「ツール」→「インターネット オプション」→「設定」→「ファイルの表示」にナビゲートし、このフォルダ内のすべてのファイルを削除します。
- 5 デフォルトの views.css ファイルを適切なフォルダにリストアします。
- 6 Oracle Business Intelligence Server、Oracle Business Intelligence Presentation Services および IIS を再起動します。

Oracle BI Scheduler の再構成

Siebel Analytics Scheduler を Oracle BI Scheduler にアップグレードした後、次の作業を実行します。

- [Oracle BI Scheduler サーバーの再構成 \(23 ページ\)](#) (全プラットフォーム)
- [Microsoft Windows での Oracle BI Scheduler 設定の再作成 \(23 ページ\)](#) (Microsoft Windows)

Oracle BI Scheduler サーバーの再構成

Oracle Business Intelligence へのアップグレードの終了後は、Oracle BI Scheduler サーバーを正しく構成するための追加作業を行う必要があります。Scheduler 管理者の資格証明を Presentation Services の資格証明ストアに保存し、このストアを Presentation Services に対して指定してください。これは、Presentation Services と Scheduler との間の正常な通信と、Delivers の機能の有効化のために不可欠な作業です。

Scheduler の資格証明を Presentation Services の資格証明ストアに追加する方法、Presentation Services を構成してストアを識別する方法、およびデプロイメントに必要な追加の構成作業の詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストレーションおよび構成ガイド』の BI Scheduler の構成に関する章を参照してください。

Microsoft Windows での Oracle BI Scheduler 設定の再作成

Microsoft Windows では、Oracle BI Scheduler をアップグレードすると、以前のリリースからの Windows レジストリ・キー設定が SiebelAnalytics.reg というファイルにエクスポートされます。これらの Scheduler 設定は、SiebelAnalytics.reg ファイルを参照しながら instanceconfig.xml ファイルで手動で再作成する必要があります。

SiebelAnalytics.reg ファイルは、OBIEE¥Install_Backup¥10.13.2006_14.50.45 ディレクトリ (最後のディレクトリは、Siebel Analytics のアップグレードが行われたときのタイムスタンプを示す) にあります。

アップグレードされたコンポーネントのバージョン番号の確認

アップグレード後は、すべてのコンポーネントがアップグレードされたことを確認する必要があります。表 5 に、Oracle BI Infrastructure コンポーネントのバージョン番号の確認方法を示します。

表 5. Oracle BI Infrastructure コンポーネントのバージョン番号の確認

コンポーネント	バージョン番号へのパス
Oracle BI Infrastructure	<p>\$OracleBI_HOME¥Document¥version.txt ファイルを開きます (Windows)。</p> <p>\$INSTALLDIR/Document/version.txt ファイルを開きます (UNIX)。</p> <p>version.txt は、すべてのコンポーネントの \$OracleBI_HOME にインストールされますが、一部のコンポーネントでは、それ以外の場所にもインストールされます。たとえば、Oracle BI Server の場合、\$OracleBI¥server¥document にもインストールされます。</p>
Presentation Services	「Access Presentation Services Administration」リンクをクリックします。
Catalog Manager	(ツールバー) 「Help」 → 「About Catalog Manager」。
Job Manager	(ツールバー) 「Help」 → 「About Job Manager」。
ODBC Client	(ODBC ツールバー) 「Help」 → 「About」。
Server Administration Tool	(ツールバー) 「Help」 → 「About Administration Tool」。

Siebel Business Analytics から Oracle BI Infrastructure へのアップグレード後の変更

Oracle BI 10.1.3.2 へのアップグレード後は、次の変更が行われています。

- Oracle BI 10.1.3.2 では、インストールされたフォルダ構造が変更されます。既存のすべてのディレクトリとファイルは、\$OracleBI_HOME ルート・インストール・ディレクトリおよび \$OracleBIData_HOME データ・ディレクトリから \$OracleBI_HOME/Install_Backup/backupAnalytics へバックアップされます。
- Microsoft Windows の場合、HKLM/SOFTWARE/Siebel Systems, Inc./Siebel Analytics レジストリ・キー全体が、\$OracleBI_HOME/Install_Backup/<InstallTime>/SiebelAnalytics.reg にエクスポートされてから削除されます。Oracle BI 10.1.3.2 では、Windows におけるレジストリの依存性が削除されます。Oracle BI Infrastructure では、System 変数を使用して SAROOT、SADATA および SATEMP フォルダを定義します。
- Siebel Analytics サービスは削除され、Oracle BI Presentation Server、Oracle BI Scheduler Server、Oracle BI Cluster Controller、Oracle BI Java Host などの Oracle BI Services がインストールされます。

- Oracle BI 10.1.3.2は、既存の \$OracleBI_HOME および \$OracleBIData_HOME ディレクトリにインストールされます。
- \$OracleBI_HOME/Config/DBFeatures.INI が存在する場合、そのファイルは \$OracleBI_HOME/server/Config/DBFeatures.INI.78 に移行されます。
- \$OracleBI_HOME/Config/NQClusterConfig.INI が存在する場合、そのファイルは \$OracleBI_HOME/server/Config/NQClusterConfig.INI.78 に移行されます。
- \$OracleBI_HOME/Config/NQSConfig.INI が存在する場合、そのファイルは \$OracleBI_HOME/server/Config/NQSConfig.INI.78 に移行されます。
- \$OracleBI_HOME/Repository/*.rpd ファイルはすべて、古いリポジトリから \$OracleBI_HOME/server/Repository へコピーされます。demo1.rpd が存在する場合、そのファイルは server/Repository/demo1.rpd.78 にコピーされます。ORA_northwind.rpd が存在する場合、そのファイルは server/Repository/ORA_northwind.rpd.7 にコピーされます。
- \$OracleBI_HOME/setup/odbc.ini が存在する場合、そのファイルは \$OracleBI_HOME/setup/odbc.ini.78 に移行されます。
- \$OracleBI_HOME/setup/user.sh が存在する場合、そのファイルは \$OracleBI_HOME/setup/user.sh.78 に移行されます。
- \$OracleBIData_HOME/web/config/instanceconfig.xml が存在する場合、そのファイルは \$OracleBIData_HOME/web/config/instanceconfig.xml.78 に移行されます。
- \$OracleBIData_HOME/web/catalog/*.webcat ファイルはすべて、\$OracleBIData_HOME/web/catalog にコピーされます。webcat は、アップグレードの完了後に sawmigrate ユーティリティを使用して Oracle BI Infrastructure webcat に移行する必要があります。アップグレード時には、Web Catalog は移行されません。sawmigrate の使用方法については、「[Siebel Analytics Web Catalog から Oracle BI Presentation Catalog へのアップグレード](#)」(14 ページ) を参照してください。また、スタイルシートも再適用する必要があります。「[カスタマイズされたスタイルシートの再適用](#)」(22 ページ) を参照してください。
- \$OracleBIData_HOME/web/Res ディレクトリが空でない場合、その内容は \$OracleBIData_HOME/web/res にコピーされます。
- \$OracleBIData_HOME/Disconnected ディレクトリが空でない場合、その内容は \$OracleBIData_HOME/disconnected にコピーされます。
- \$OracleBIData_HOME/web/catalog/Deliveries ディレクトリが空でない場合、その内容は Oracle BI Infrastructure の新規ディレクトリである \$OracleBIData_HOME/web/catalog/deliveries にコピーされます。
この deliveries ディレクトリは、sawmigrate ユーティリティのみが使用します。sawmigrate の実行後は、10.1.3.2 の deliveries の内容が catalog ディレクトリ・ツリー自体に配置されるため、コピーしたディレクトリは削除できます。
- 使用状況トラッキング・スキーマには、物理スキーマの更新を必要とする新しい列が追加されます。詳細は、「[使用状況トラッキング・スキーマのアップグレード](#)」(20 ページ) を参照してください。

Oracle BI Infrastructure のプレリリース・バージョンからのアップグレード

Oracle BI Infrastructure をプレリリース・バージョンから現バージョンへアップグレードすると、次の変更が行われます。

- すべての構成ファイル（NQSSConfig.ini、NQSClusterConfig.ini、instanceconfig.xml）は更新されません。
- すべてのライブラリ（Windows の .dll ファイル）が更新されます。
 - アップグレード中に既存の構成を維持すること（デフォルト）を選択した場合、すべてのライブラリ（Windows の .dll ファイル）が更新されます。
 - 既存の構成を維持することを選択しなかった場合、NQSSConfig.INI、NQSClusterConfig.INI および instanceconfig.xml がデフォルト値にリセットされます。

Oracle BI Infrastructure のテスト

アップグレードの実行後は、システムを慎重にテストして、すべてのレガシー機能が正常に動作することを確認する必要があります。

Oracle BI Infrastructure へのアップグレードのアンインストール

Oracle BI Infrastructure のアップグレード後のバージョンをアンインストールする場合、つまり、Siebel Analytics 7.8.4.X または 7.8.5.X から Oracle BI Infrastructure 10.1.3.2 にアップグレードした後で、そのアップグレードをアンインストールする場合、自動的にバックアップされたデータは自動的に削除されません。アンインストール後の領域を確保するには、ディレクトリを手動で削除する必要があります。

索引

A

Analytics リポジトリ

古いリポジトリ、アップグレード時の使用 18

D

Disconnected Analytics Client

サイレント・モード、アップグレード 18
必要な変更 19

M

Microsoft Excel アドイン

アップグレード 20

O

Oracle BI Infrastructure

概要 9
コンポーネント名 8
新機能 9
変更された機能 9

Oracle BI Presentation カタログ

アップグレード 14

Oracle BI から Oracle BI へのアップグレード

変更 26

Oracle BI のクラスタ化

新機能 9

S

Siebel Analytics Web Catalog

置換え 9

Siebel Analytics ファイル

バックアップ 11

Siebel から Oracle BI へのアップグレード

アップグレードのアンインストール 26
変更 24

W

WAR ファイル

アップグレード 18

Web Catalog 14

WebARhive ファイル

アップグレード 18

あ

アップグレード 14, 22

WAR ファイル 18

Web Catalog 14

アップグレード後の変更 21

プラットフォーム・アップグレードの定義 13

プラットフォームのアップグレード・プロセス 14

か

カスタマイズされたスタイルシート 22

再適用 22

クライアント環境

アップグレード 10

コンポーネント

バージョン番号 24

さ

サイレント・モード

Disconnected Analytics Client のアップグレード 18

使用状況トラッキング

新しい列 20

アップグレード・スクリプト 20

スキンとスタイル

デフォルトの Oracle BI Infrastructure 22

変更 22

スタイルシート

再適用 22

は

バージョン番号

コンポーネント 24

バックアップ

Siebel Analytics ファイル 11

古いリポジトリ、アップグレード時の使用 18

